『そのときあの人はいくつ？　何歳でも歴史はつくれる』
稲田雅子／文　クー／絵　池上彰／監修　小学館　280 イ

偉い人っていつから偉いんだろう？　そんな疑問をもったことはありませんか？　この本を読むと、遅咲きの人物に安心したり、はたまた早咲きの人物に焦ったりするかも。でも大丈夫！　人は決意したときから変われるのだ！

『ハナコの愛したふたつの国』シンシア・カドハタ／作
もりうちすみこ／訳　小学館　K933 カ

家族はアメリカでレストランを経営していましたが、日本と戦争が始まり、他の日系人とともに収容所へ。終戦後、父親の実家のある日本を目指します。アメリカ育ちのハナコと全てを失った家族はどのように生きていくのでしょうか。

『すきっていわなきゃだめ？』辻村深月／作　今日マチ子／絵
岩崎書店　E ク

すきなひと、いる？　すきっていわないの？　ほんとうのすきってなに？――自分の気持ちを理解するって、自分でも結構難しい。でも、言葉で説明できなくても、名前なんかなくても、きっとそれは、自分だけの大事なもの。

『妄想国語辞典』野澤幸司／著　扶桑社　816.2 ノ

「行けたら行きます」「〇〇時間しか寝てない」etc.…。日常で見かけ、意味も何となく分かるけれど辞典には載らない様々な言葉が収録。思わず「あるある！」と言ってしまうものばかりです。『妄想国語辞典２』もあります。

『メシが食える大人になる！　よのなかルールブック』
高濱正伸/監修　林ユミ／絵　日本図書センター　159 サ

「いいことを言うよりも、よい〇〇をとる。」「〇〇〇〇〇を口ぐせに。」「迷ったときは、〇〇〇〇〇を選ぶ。」「“後悔”はしない。でも“〇〇”はしっかりする。」大人になる前に知っておいてほしい大切なルールとは。

『キャプテンマークと銭湯と』佐藤いつ子／著
佐藤真紀子／絵　角川書店　K913 サ

新入りメンバーにキャプテンの座を奪われてしまったサッカー少年の挫折と成長を描く物語。徐々にチーム内で孤立し自分の居場所を見失う少年だが、銭湯での出会いの中で少年の心は大きく動き出す。

『神々と戦士たち　Ⅰ　青銅の短剣』ミシェル・ペイヴァー／著
中谷友紀子／訳　あすなろ書房　K933 ペ

紀元前 1500 年のギリシアが舞台。山奥で暮らす少年ヒュラスは、黒づくめの戦士たちに命を狙われます。逃げ込んだ小屋の中には傷を負った男がいて、謎の言葉と青銅製の短剣を残し死んでしまいます。

『推しにささげるスイーツレシピ』メリリル／著
グラフィック社　596.6 メ

心ときめく推し色スイーツ、自分で作ってみませんか？　市販品のアレンジも１から作るレシピも、推しへの愛は変わりません。もちろん推しがいなくても、手作りのカラフルスイーツは素敵なティータイムにぴったりです。

『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』
井上ひさし／文　いわさきちひろ／絵　講談社　323.1 イ

とっつきにくいと感じがちな日本国憲法をやさしく説明した本。井上ひさしが「これだけは読んでほしい」という前文と第９条は、いわさきちひろの柔らかく温かな挿絵によって詩的な絵本のような味わいに。

『雲を紡ぐ』伊吹有喜／著　文藝春秋　913.6 イ

主人公山崎美緒（やまざきみお）は都内の高校二年生。高校に行かなくなって、一カ月。母は中学教師、父は会社員。飛び出すように祖父が営む盛岡にある染織工房に一人で向かいます。家族の中で絡まってしまった糸をほどくことができるのでしょうか。